

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番地10  
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

安藤一夫 小林国二 小林善秋 高橋謙  
加瀬由紀子 近藤マリ子 近藤善信  
印刷・(株)北越時報社



大間入り口正面に掛けられた「蔵王山」の額

上の写真は、本堂へ入らるとすぐ上(大間入り口正面)に掛けられております「蔵王山」の山號額です。

山号とは、もともと山中に建てられた寺院を某山某寺とよんだことに起源しておりますが、鎌倉時代以降、禅僧の渡来とともに、中国の五山などに擬して寺名の上に山号を冠する風が起り、平地に建てられた寺院はもとより、市中にある寺院にも山号がつけられるようになりました。

写真の字は明治三年、大本山總持寺独住第一世にいられた、諸嶽突堂禪師様(一八〇五〜一八七九)の書かれたものです。安善寺が戊辰の役で伽藍を焼失した後、明治八年に本堂竣工に合わせて作られたものと推察されますが、総樺作りで大変重厚で立派な額です。来山の折りに改めてご覧ください。

ご家族の皆さままでご覧ください

## 迎春

今年も宜しくお願い申し上げます

平成十四年正月 山内一同

禅語に「随處作主」(仏界・魔界・天上・地獄・順境・逆境、いずれにあつても何物からも自己を乱されることのない、無礙自在なこと)という言葉があります。誠に現在の私共にとって大事な言葉ではないでしょうか。

昨年九月のニューヨークの世界貿易センターでのテロ事件、日本でのBES(狂牛病)問題等、人々を震撼させることや、心配させられることが多々起り、その度に右往左往させられているのが現在の我々ではないでしょうか。

自分の生命を大事にすることは重要なことです。風評にながされ、安全な地域にもかかわらず、前々から計画し楽しみにしていた海外旅行を取り止めたり、

検査体制が確立し、安全であるにもかかわらず、牛肉の消費は落ち込んだまま、生産者や関係する業者の死活問題となったり、逆に豚肉や鶏肉が値上がりして困っている人も大勢いると、マスメディアでも報道されております。

最近読んだ文章に「ゼロリスク探求症候群」という言葉が書かれておりました。リスクの0パーセントを求め、余り、リスクバランス感覚を失い、自分の行動が重大な社会問題を起こすことも理解できなくなる病的心理であり、多数派の意見を無批判に受け入れない、メディアの報道を鵜呑みにしない、常に自分の頭で考えるといったことが大事であると書かれていました。

私共一人ひとりの行動が、知らぬ間に日本経済を悪くする要因になっておつたり、真綿で自分の首を絞める状態になっていないでしょうか。

無門関(宗の無門慧開が古人の公案四十八則を評釈した書)に、瑞巖師彦和尚は毎日自ら「主人公」と喚んで「ハイ」と自分で返事をし、「ぼんやりするな、他人からだまされるな」といつて「ハイ、ハイ」と返答するといふ「瑞巖主人公の話」があります。自問自答して自警したということです。私共もこのような時代であればこそ、自ら「主人公」と呼んで「ハイ」と答えられるよう、また「随處作主兼」となるべく精進していきたいものです。 翠巖龍弘

朝、目を覚ましたら、「今日必ず自分にいいことがある!」と思ってください。この思いを毎日の習慣にしたら、すばらしい一年になりますよ。



# お陰さまで五年目を迎えた

## 季刊 蔵王山安善寺

文 ● 安藤 一夫



はペコの代筆者（実は和尚夫人）は大喜びです。

お寺の使命は何か、のお話に立ち返りますが、お寺の使命は、檀信徒方や皆さんの悩みを聞いて、いっしょに幸せを祈り、健康を祈ることなのです。

お寺は、お葬式と法事をやるだけの場所ではありません。龍弘和尚さんも、お葬式と法事をするためにいるのではないのです。

巻頭言、随想、Q&A、法話、読者の便り、編集雑感などの主な記事は、ほとんど今も変わっていません。

四ページから八ページ版になって、広告を取ろうかとも思いましたが、その分書くスペースが減ると、美意識が許さないといいことで、一度も入れないのが自慢です。

意外だったのは、「ペコ大蔵日記」をまつ先に読むという読者が多いことで、これに

『蔵王山安善寺』の刊行を思いついたのが、一九九八年の正月。今年で五年目になります。初版は思いつきで有志と編集会議を開き、四ページで枠組みができました。安善寺に来たくても来られない方々との、つながりになればいいと思いました。もう一つの思いは、お寺発刊の新聞があったら、本来のお寺の使命を伝えることが出来るということでした。

行くのだろうか。

皆さんも、子供さんに「何のために生きているの？」と聞かれたことがあるでしょう。

その質問に、親が本気になる正面から答えられないからおかしくなるのです。

「君がいるから、だれかが幸せになるんだよ。君はそのために生きているんだ」と、しっかり言い切ったあげたらしいじゃないですか。

ビジネスの世界でも同じです。何のために仕事をするのか？ それはお客が幸せ

になってもらうためです。

真剣に説いてもまだ、わかって貰えなかつたら、安善寺で坐禅をして、根性を入れ替えるといいと思います。

そんなことを一生懸命考へながら、どうしたら幸せになれるのか、皆さんと一緒に考えているのが、龍弘和尚さんなのです。そして、お寺はそのためにあるのです。

安善寺の広い伽藍で、龍弘和尚さんがひとりて本堂に座っていても、しようがありませんからね。

お年寄りも若い人も、皆さんがお参りにきてくださって悩みを相談くださる。それで、はじめてお寺の役割が成り立つのです。

ありがたいことに、『蔵王山安善寺』は、皆さんからタダ原稿をいただいで、手づくりの編集と、印刷所の破格のご好意で、お届けしております。これこそ仏様のご利益ということでしょうか。

ご家族の皆さんで、どうぞ今年もご愛読ください。よろしくお願いたします。

### しゅう とう 曹 洞 宗

禅宗の一派である曹洞宗は、仏教の開祖釈迦牟尼仏が坐禅によってさとりを開かれた教えを、幾世代にもわたって正しく承継されてきたものです。その教えは、いつでも、どこでも、真実の自己が現成している坐禅を説きますが、その坐禅もさとりを得る手段ではなく、坐禅そのものが仏の世界で生かされているという教えです。その坐禅の教えを、中国へ伝えられた菩提達磨の流れをくんだ如浄禅師について道元禅師は習得し、開いたのが日本曹洞宗の始まりです。その教えを、全国に広める礎を築いたのが瑩山禅師でした。

現在、永平寺と總持寺の両大本山を中心に、ヨーロッパやアメリカをもふくめて、全国に約一万五千ヶ寺と檀信徒約八百万人を数えるわが国最大の仏教集団に発展しています。

曹洞宗は多くの民衆の力によって支えられて発展してきました。すなわち、道元禅師の教えを時代に即した要望にこたえ、祈禱なども行って教えを推し進めていったのであり、また、子供に親しまれている「良寛さん」のような、静かな修道を続けられた名僧もいました。

曹洞宗は釈迦牟尼仏を本尊とし、道元禅師（高祖承陽大師）と瑩山禅師（太祖常済大師）を一仏両祖と仰いで、禅の教えを中心としながら民衆教化に努めています。



近隣寺院紹介

# 妙喜寺 長岡市愛宕町

## 気やすくお立ち寄りください

妙喜寺住職 室賀 静英



絵・禅道泰巖

に大変無調法なこと」と言うことになり、出家を勧められ、寺を建て開基されたと伝え聞いています。

当、妙喜庵のご本尊様は、お釈迦様で、京都から納められました。安善寺十九世奇巖本瑞大和尚を開山様と請され、末寺となり、今の愛宕神社隣に位置した広い敷地で、現東堂の龍静庵主(九十五才)が子供の頃、周りは葦の野原だったということです。師範学校が出来るため、今の所へ移ることになりました。

愛宕に妙喜庵の庵が出来たのは、今から二百年前で、三條の広川長八家にて出生の躰應妙全尼和尚様が開闢された。  
妙全様の実家である広川家は、大勢の使用人のいる豪商であったようです。成長され、縁談もま

り、嫁入道具は京都に誂えられたとのことで、出来上がり、届けられた中に喪服一式も入っていたとのことで、当時は、喪服は嫁ぎ先で不幸がおきたときに、初めて実家より届けられるのが仕来りであったので、「お前は嫁に出すわけにはいかない、先様

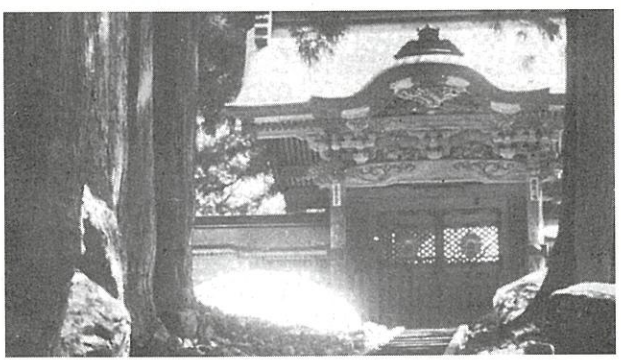
当地は、駐米大使齋藤博氏のお屋敷跡でした。寺は度々火災に遭つたり、昭和四年の台風で屋根を飛ばされたりし、七世賢龍庵主様は、寺建立を発願されました。檀家のない尼寺のこと、それは並大抵のことではなく、五・六名いた弟子達は厳しい

師匠と共に、ただ寺建立に精進され、本寺、故見龍方丈様の応援も受け、四年の歳月をかけて昭和八年に永平寺様の旗慧昭禅師様をお迎えし、落慶法要されました。賢龍庵主様は晩年に、よく「時代がよかつたから出来たが、一寸尼寺にしては大きかった」と度々語られて、八十才で亡くなられました。

寺が出来てからは、念願の法要に心血を注がれ、大勢の尼僧さんを招き、年中行事として、観音懺法要、地蔵講式、菩薩戒大布薩式等が勤められ、とくに七月六日・七日の両日には、無縁供養、万灯供養法要が厳修され、雲洞庵住職新井石龍老師を拝請し営まれてきました。

現在、七月七日の大般若会法要に、導師として藤本幸邦老師をお迎えし厳修いたしております。月例行事として、写経会、地蔵様のご命日(廿四日)は、

参詣者と一緒に読経、観音様(ご命日(十七日))は梅花流の御詠歌の会としております。ご詠歌は、お唱えする人も、聞く人も心を癒されます。  
茶道教室、華道教室、日本画教室、ヨガ教室など、お寺を開放して、地域の大勢の皆様方にご利用いただいております。  
どなたにも気楽においでいただき度、お待ち申し上げております。



### 大本山 永平寺

福井県吉田郡永平寺町志比

寛元元年(一一四三)、道元禪師は、この地方の領主波多野義重公の縁をたよりに山城の興聖寺からこの地へ移られた。その翌年、傘松峰大仏寺(現在の永平寺)を創建され、二年後の寛元四年(一一四六)には、吉祥山永平寺と改められた。  
永平寺は、開創以来、十度に及ぶ火災に遭った。しかし、その都度復興され、今日では老杉に囲まれた幽寂な境内に七堂伽藍をはじめ、七十余棟が甍を競っている。

各ページのパネルは、安善寺伽藍に飾ってある五枚の額です。曹洞宗の解説、福井・永平寺、道元禪師、鶴見・総持寺、瑩山禪師です。お参りに来られたとき、ご覧になってください。



# 弘流 龍 読者とQ&A

## Q

お釈迦様が、三十五歳の十二月八日に菩提樹下で大悟されてから、最初に法が説かれたのが鹿野苑(サルナート)の地であったそうですが、なぜでしょうか？

その時「四諦・八正道」の真理を説かれたと聞いておりませんが、どんな教えでしょうか？

## A

釋尊が六年間の難行苦行をやめられ、尼連禪河(ガンジス河の支流)で水浴し村娘のスジャータより乳粥の供養を受けたのを見て、一緒に修行していた五人の比丘は、釋尊は墮落したものと錯覚し、鹿野苑の地へ去ってしまつた。釋尊は悟りを得た後、まずその内容としての「四諦八正道」を説くべき最初の相手として選んだのが、これら五人の比丘だったので。それで鹿野苑が「初転法輪」(佛陀釋尊が初

て説法された)地となつたのです。

また、この五比丘が説法を聞かれた後弟子となり、最初の仏教団ができ、その後釋尊の育ての母が出家、最初の比丘尼となり、多くの男女の信者もでき、「四衆」と呼ばれる比丘(男性出家者)・比丘尼(女性出家者)・優婆塞(男性の信者)・優婆夷(女性の信者)からなる仏教団が成立したのです。

四諦八正道の四諦とは、苦諦・集諦・滅諦・道諦の四つであり、「諦」とは「明らかにする」つまり、真理を明らかにすることで、四つの

真理という意味です。その四つとは次の通りです。

- 一、苦諦：この世は苦であるという真理(四苦八苦)
  - 二、集諦：苦には原因があるという真理(自我欲望執着心)
  - 三、滅諦：原因を滅すれば苦もまた滅するという真理(そのような執着心等を断ち切る)
  - 四、道諦：そのための適切な方法を示した真理(そのような執着心等を断ち切る方法)
- 最後の道諦の内容を述べたものが「八正道」であります。(以下は次号で)



# 大本山永平寺大遠忌参拝と京都の旅



先回の季刊紙第十五号でもお知らせいたしました。今年、大本山永平寺御開山、道元禪師様の七百五十回忌の年に当たり、その記念大遠忌法要が奉修されます。この五十年に一度の難値難遇の勝縁に、安善寺では永平寺団参と合わせ檀信徒皆様相互の親睦を兼ねていただきたく、京都

観光の旅を計画いたしました。

五月十二日(日)〜十四日(火)までの二泊三日のバスの旅です。一人でも多くの方々の参加をお待ち申し上げております。

なお、本山に最終人数を報告しなければなりませんので、締切は二月末日までとさせていただきます。

## 道元 禅 師



禪師は正治二年(一一〇〇)、内大臣久我通親と摂政関白藤原基房の女との間に京都で誕生した。三才で父を亡くし、八才で母も亡くなったため、深く世の無常を感じ、真実の道求めて出家した。十三才で比叡山にのぼり、天台座主玄円について得度したが、修學中に學問では解決しえない疑問をもち、臨濟宗の栄西門をたぎ、弟子の明全の指導を受けて禪の修行に入った。

貞應元年(一一三三)、中国(宋)へ渡り、天童山の景德寺で、如浄禪師について厳しい修行をし、ついに心身脱落のさとりを得た。

安貞元年(一一三七)に帰朝するや、坐禪の意義や方法を示した「首楞坐禪儀」を著し、また、山城に興聖寺を開いて、人材打出の根本道場としたが、都に近いため庄迫などがあり、それを避けるために越前の山中に大仏寺(現在の永平寺)を開いて、正伝の仏法を伝える弟子の養成と「正法眼蔵」などの撰述に専念した。禪師は名聲、権勢をきらい、幕府の寄進や朝廷からの紫衣も用いることなく、一生黒衣で通したといわれる。

建長五年(一一五三)、病氣療養のために入浴し、ついに陰曆八月二十五日、五十四才の生涯をとした。

永平寺二世孤雲懷非禪師は、道元禪師より二十才上であるが、正師の道元に仕え「正法眼蔵隨聞記」「光明感三昧」などを著して、禪師の宗教を後世に残した。

曹洞宗では、道元禪師が純粹な正伝の仏法をわが国に確立しようとしたところから、法統(法皇)の祖として仰いでいます。

仏様の耳はみな大きいのです。それは仏様がみんなの言うことを聞いてくださる印です。仏様の口はみな小さいのです。それは仏様がみんなの胸のつかえていることをよく聞くためです。



# パワフル・ソウル

加瀬由紀子

雲海の上はまだ夕日が燃えているが、高度を下げてゆく機首の方向は既に夜。数えきれないビルの窓灯りやきらめくネオン、行き交う車の帯状の光がぐんぐん近づいてきて、やがて滑走路に降り立つまで…夕暮れどきの離発着は、誰もが旅情をかきたてられるものだ。七年ぶりに訪れたソウル

は、金浦空港に代わって成田を上回るといふ広大なインチョン（仁川）空港の設備に、まず目を見はった。アジアのハブ（中核）空港として国際的な評価を得ていると言う。かつて、トランジット（乗換え）したオランダ

かけて今年一月に発足した女性省（百数十人の職員がいる。日本は内閣府の中に相当部署がある貧弱さ）、韓国国家庭法律相談所、韓国女性民友会等を訪問した。わが国は、二〇〇一年十月にドメスティックバイオレンス（夫婦



のスキポール空港に勝とも劣らないスケールだ。今回の訪韓は、IWN（新潟県女性海外派遣修了者の会）有志によるジェンダー（社会的な性差別）関連施設の視察が目的だった。金大中大統領夫人が呼び

間の暴力）に対する法律が制定されたが、韓国ではいち早く一九九七年に法制化されている。次回の選挙には各政党の候補者の三十パーセントは女性を立てる、という法案がまもなく議会で通過するそうだ。一気に北

欧水準に並ぶ訳で、日本の対策が急がれる。

なぜ勉強するのか、と大学生に尋ねた。「修養です。たくさん知識を自分を高めるために得たい」日本の教育の荒廃を思い、私は言葉もない。儒教や安定した金大中政権の影響があるとしても、修養、向上心、という言葉は、日本の学生から耳にすることはない。韓国もI・T不況であるが、若者たちは、日本、ヨーロッパ

パへ向かい、家族でアメリカへの移住もあるという。

高層ビルが林立する東大門界隈は、南大門と同様、深夜まで賑わう。国立中央博物館（旧朝鮮総督府）は撤去されたが、昌徳宮、景福宮は今も静かに緑を保っている。侵略と蹂躪と暗黒がこの国を襲った。だから、他に何も残っていない。不死鳥のように立ち上がった民族の熱い思いが、今に至る。以前、知人の在日のジャー

ナリストは、差別を乗り越えるために、日本人のリンク上を目指して努力してきた、と語った。パワーの原点はそこにある。

雑踏の中で私は申し訳なさに、熱いものがこみあげてくるのをこらう切れなかつた。日本人個々が歴史の真実を認識し、アジア諸国との溝を埋める作業を、永遠に続けてゆく義務がある。真の国際交流はそこから始まるに違いない。



## 大本山總持寺

神奈川県横浜市鶴見区鶴見二丁目一

石川県礪波庄（現在、石川県鳳至郡門前町）にあった諸嶽寺に請された瑩山禪師は、元亨元年（一二三二）、諸嶽山總持寺と改称した。これが、大本山總持寺のはじまりである。

静寂なたたずまいの地であったが、明治三十一年に大伽藍を焼失したため、同四十年に現在地へ移転された。

現在、諸伽藍、諸施設は完備し、雲水の道場としてはもとより、外国人参禅者や宗門檀信徒の信仰の場として一大禅苑を形成している。

お釈迦様はお生まれになってすぐ右手で天を、左手で地をさして、「天上天下唯我独尊」と、おっしゃいました。「天にも地にもかけがいのない我が命は唯一なり。尊いかな」と解釈してみましょう。



# 読者からの便り

## 私の健康法

長岡市 ● 岡昭栄

三十五年間、共に過ごしてきた妻に先立たれて、もう五年になります。

これからは、妻の分まで長生きをしようと考えたのが、毎日の散歩です。

散歩のコースは、春夏秋冬は近くの栖吉川の土手を一時間ほど歩いていきます。

ありがたいもので、ご夫婦連れや、犬を連れた方とお馴染みの顔見知りができる、今では散歩の時間が楽しみです。

しかし、冬は大変です。まず暖かい身仕度をして、神田通りから新町方面に行き、安善寺様に、「今日もありがとうございます」と合掌して、袋町を通過して川崎の我が家に帰ります。

幸い、昨年の冬も風邪ひとつひかないで頑張りました。やはりご先祖様のお陰。こ

れからもずっと続けていきたいと思っています。

## 墓石を磨いて

新津市 ● 中野健一

また、お盆が来ました。今まで祖母、祖父、両親が眠っている墓石を磨いてあげることや、お経をあげるなどとは、思いもよみませんでした。

仏壇の前に正座して、お水と灯明、線香をたいて、私を育ててくれた多くの故

人の名を呼びながらお経を読みます。

## 観自在菩薩で始まる経典

は、読み終わるころには何かホッとした気持ちにさせてくれます。

住職と奥様には、いつもよくしていただいで感謝しております。

これからは汚れたお墓を丁寧に洗って、供養をしていきたいと思っています。

## 二〇〇二年に向けて

柏崎市 ● 須崎春雄

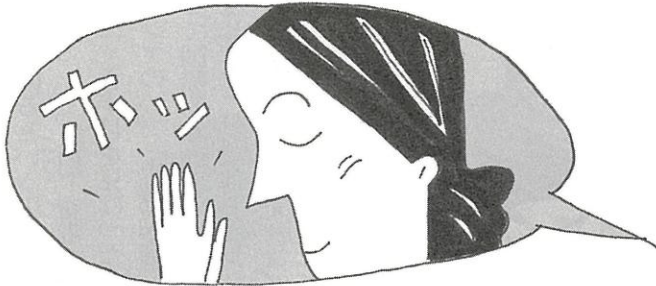
皆さん、幸せですか？ 経済大国の日本も、バブル崩壊以後は世の中は下降の一路をたどり、株価も史上最低を記録しました。

政府も痛みを耐えるよう国民に訴えています。これからのどうなるのか、心の雲が晴れません。

しかし、景気が回復しても、幸せを感じる社会になつていくでしょうか。

「衣食足りて礼節を知る」という言葉があります。戦後の日本人は、心を忘れたのだと思います。

あのころの私たちは、六



## お別れ

平成十三年十月一日(十二月末)

小川栄一様 十月二日寂

長岡市表町

金井シゲル様 十月三日寂

八王子市

大沼秀夫様 十月十四日寂

長岡市豊

大崎 章様 十月十八日寂

長岡市堀金

鈴木トメ様 十月二十一日寂

長岡市横山町

本間勢二郎様 十月二十四日寂

東京都杉並区

大平ユキエ様 十月二十九日寂

長岡市永田

小野寺 渉様 十一月一日寂

さいたま市

町永トヨ様 十一月六日寂

長岡市西新町

上田政次様 十一月七日寂

長岡市西神田

井上南津男様 十一月十五日寂

長岡市荻野

淡路 修様 十二月五日寂

長岡市水道町

熊倉昭栄様 十二月十二日寂

長岡市琴平

山口晋作様 十二月十九日寂

長岡市地藏

ご冥福をお祈り申し上げます。



## じ 師 ぜん 山 ざん けい 瑩

禪師は文永五年(二二六八)、越前に誕生した。母の観音信仰に感化され、八才で永平寺にのぼり、十三才の時、懷辨禪師について得度した。十八才になるや、全国へ修行の旅に出かけ、やがて三十二才で、永平寺三世の徹通義介禪師の法を嗣いだ。そして、「坐禪用心記」「伝光録」などを著すとともに、加賀に浄住寺や能登に永光寺を開いて宗風を広めた。

禪師の名声は高まり、元応二年(二三二〇)、後醍醐天皇より紫衣を賜った。元亨元年(二三二二)、能登の真言宗の諸嶽寺を曹洞宗の總持寺と改め、曹洞宗の出世道場として、永平寺とともに大本山と公称されるようになった。

禪師の晩年は總持寺、永光寺の伽藍を整え、門弟の育成、曹洞宗の民衆化、在家への教化を続け、正中二年(二三三五)陰曆八月十五日、五十八才で遷化された。

禪師の高弟である明峰素哲禪師門下は十二門派に広がり、總持寺二世となった峨山昭碩禪師は二十五哲といわれる門下を輩出して、全国に多くの門流を生み出した。

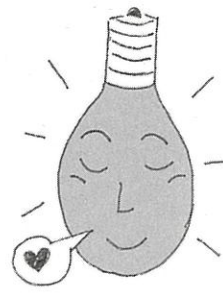
曹洞宗では、瑩山禪師を「宗団の祖」として仰いでいる。

「南無阿弥陀仏」と拜むのは「わたしのすべてを阿弥陀仏に捧げます。だからよろしくお願ひします」と祈っているのです。阿弥陀仏様は、私たちのすべての人々を見護って下さいます。



○ワットの電球一個、ラジ  
オ一台で幸せでした。  
昭和二十年の敗戦のと  
き、今度こそ文化国家にな  
ろうと決心しました。

そして、東京オリンピック  
で、その目的は遂げました。



以後、日本の文化はどう  
なったのでしょうか。ある  
経済学者は、資本主義の二  
百年はムダの時代、金儲け  
が人の心を狂気に駆りたて  
たとも言っています。

それにしても、「足るを  
知り常に楽しむ」の儒教の  
教えに帰るべきです。

また、政治家には哲学が  
なければ、真の幸せ政治は  
創りえないと言われていま  
すが、仏教には二千年のお  
釈迦様の教えがあります。

この便りが、皆さまの目  
に入る頃には、痛みを耐える大  
改革が進行していると思  
いますが、佛教の心を忘れず  
にいききたいと祈っています。

# 人間は「気」の生き物

安藤一夫

安善寺の本堂に行くときと霊  
氣をいっぱい感じますね。き  
つと生命力をたくさんもらえ  
るのではないかと思います。  
人間は「気」の生き物だ、  
「気」こそ生命力の根源だ、  
とよく言われます。

「気」は本来が中国の思想  
なんです。大昔の中国では、  
あらゆる事物は「一気」から  
成り立っていて、「気が聚ま  
ればすなわち生、気が散すれ  
ばすなわち死」(莊子)とい  
うことなのだそうです。

天気、元氣、生氣、意氣、英  
氣、根氣、豪氣、正氣、人  
氣、本氣、勇氣、浮氣、怒  
氣、語氣、暑氣、冷気など、  
もうほとんどの人間の営み  
に関するものは、この「気」と  
いう言葉で説明できますね。  
陰陽道では、この「気」  
を陰陽の二つの気、陰氣と  
陽氣に分けたところから始  
まっているようです。

数字の奇数が「陽」、偶数  
が「陰」。だから、一月一日の



元旦、三月三日のひな祭り、  
五月五日の子どもの日、七  
月七日は七夕。いずれも、奇  
数が重なって、最大に陽氣  
が強い日と見たようです。  
そんなわけで、気は「開放  
系」なんです。人間を活かし  
ていくのは「気」の力です。

活発に生きている人は  
「気」のエネルギーが高い人  
なんです。

「明るい病人は治りが早  
い」とか、「病は気から」と

か、「気で氣を病む」って、  
よく言うじゃないですか。  
強いエネルギーを持った  
「気」で、あなたの人生を  
がんばってください。

今年十二支の第七、午  
年です。方位でいえば暖か  
な南、時間でいえば真昼の  
十二時、聞いただけでエネ  
ルギーが溢れてきます。

さあ、意気ましょ。そう  
すると、今このどうしようも  
ない時代も、必ず変わります  
から。

## 愛犬・愛猫のお墓は ご先祖様の近くで

境内に犬猫のお墓がある  
ことをご存知の方は、以外  
に少ないようです。

現在のように、犬や猫を  
飼う家が少なかった頃、飼  
犬や猫が亡くなると「お寺  
の境内に埋めてもらえませ  
んでしようか」と言われて来  
られる方がおられました。

でもそうそう穴を掘ってば  
かりもいられないので、お  
墓を造ることにしたのです



が、場所を何処へするか  
問題でした。

少し前までは、子供達が  
公園で遊びまわっているそ  
ばには、犬も一緒になって  
走り廻っていたり、お年寄  
りがゲートボールをしてい  
るそばには、猫がひなたぼ  
っこをしている光景を良く  
見かけたものです。

犬や猫が亡くなってから  
も、そんな子供達やお年寄

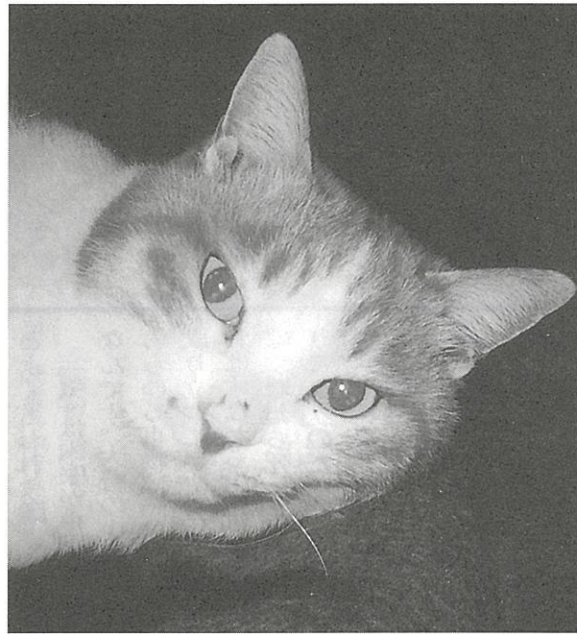
りの楽しい姿を見ながら、  
安らかに眠ってもらいた  
いと言う願いから、稲荷堂の  
横に公園の方を向くよう  
にして昭和六十一年七月に建  
立されたのです。

時代も移り、犬や猫を我  
が子のように可愛がって飼  
われている家がとても多  
くなりました。お寺も、飼  
うようになったのですが、  
何匹もの犬や猫が共同で  
そのお墓には眠っていま  
す。皆様の愛犬、愛猫にお  
別れがあったら、ご先祖様  
の眠っておられる近くの、こ  
のお墓をご利用ください。

人はすべてを捧げれば、とても楽になります。おまかせすることが楽なのです。「信とはまかせることなり」。「信心」の「信」です。道元禪師も良寛和尚もそうおっしゃっています。



# さくらのいた生活は 夢なのか幻なのか



さくらが訓練に行つてしまつてから、もうどれくらいの日日が過ぎたのでしょうか。最初は階下がなんとなく静かになつたな一と思つていたのですが、うかつに下に降りて行つてまた、私を見つけて来られてはと、心配で様子をおかがつていました。でも、私と同じように外

部からも様子をおかがつていたようです。さくらがいなくなつて二週間くらいしたある日、午前中は何となく肌寒かつたので、本堂の戸は閉まつたままでした。でも、午後からとても暖かくなつたので、住職が本堂の戸を開けに行くなり、「お母さん大変だよ！」と言う大き

な声が聞こえてきました。声に誘われて、私もやじ馬根性まる出しで、一緒について行つてみましたら、本堂の墓地側の戸が、外部から壊されてはいるではありませんか。夜中に何度も、さくらが吠える声が聞こえていたんですが、教えてくれていたんですね!! 大した被害もなかったようで、まずはひと安心だつたようですが…。

そんなことがあつてから、私はおそろおそろ家中の部屋をみんな眺めてみないた。私にとつての一通りの点検というものです。でも、どこにもさくらの姿は見あたりません。そんな私の様子を見て、住職とお母さんが「ペコにとつて、さくらのいた生活は、夢か幻だと思つているのかね」なんて話しかけている声が聞こえてきました。私にとつては

## ペコのひとりごと

悪夢を見ているようでもあつたのですが…。

でも、私の苦手な冬に向かつて、皆の集う部屋に何の心配もなく参加出来るのは、この上もない喜びでもあるのですが…。

今年のお寺のお正月は、下の二人のお兄ちゃん、住職とお母さんだけだつたので、とても静かで淋しいお正月でした。

お兄ちゃんは、初めて迎えた本山のお正月はどうだつたでしょうね。  
ニヤーン

## 編集 雑感

新年明けましておめでとうございませう。昨年で一番明るいニュースは何といつても、皇太子ご夫妻の内親王様誕生でしょう。国民皆で心よりお祝いを祈念したと思ひます。これで日本の伝統が守られます。

最近、伝統・文化が軽んじられ、日本の良さが希薄に感じられます。正月の行事を各家庭でどのくらい継承されているのか不安にさえなります。

伝統・文化と言へば、昨年は米百俵ブームでした。長岡も米百俵で全国区になりました。首相の一言がこれほどまでに影響があるのかと、驚いたものです。米百俵の故事に習い、私事ですが、昨年八月、カンボジアに建

てた学校に行つて、開校式を行つて来たことも明るいニュースの一つです。これ二校目となりました。

私のグループは、高校卒業後の同期生で作つた会で「孜孜の会」といひます。卒業後、いろいろな事業を行い、平成十二年・十三年でカンボジアに学校を二校建設し、最終的にはNPO特定非営利活動法人米百俵スクールプロジェクト(小林真知子理事長)を立ち上げました。

会員はもちろん孜孜の会会員がほとんどです。心ある方々の支援で賄つておりますだけに、まだ細々とした会ではあります。皆様の応援を期待している次第です。

さて、この季刊紙では読者の皆様にお願ひがございませう。投稿や情報で成り立つておりますだけに、時期がずれたりもしますが、出来るだけ皆様の御意見・投稿・情報を掲載する所存でございませう。各家庭の若い方々のご意見、何でも歓迎します。

ので、ぜひともお知らせください。家族の話題を提供出来ればと、これにも奮闘してまいります。  
小林国二

## お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思ひます。同封の原稿用紙は、ファックスでも、郵便でも送れます。気軽に、お便りをお寄せください。お待ちしております。

### 原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい/嬉しかったこと、楽しかったこと、怒ったこと。

第十七号、春号は平成十四年三月一日(火)発行予定です。

一日の終わりに、「今日、私が犯した罪をお許しください」と懺悔しましょう。今日は、誰かの心を傷つてなかったか、誰かにつらい思いをさせなかったか、一日の終わりに考えて謝るのです。安心して眠れます。